

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワクワクひろば		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 5 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 19 日		～ 令和 8 年 2 月 7 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	令和 7 年 12 月 19 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7か所	(回答者数) 6か所
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 18 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い訪問支援員が、園や学校に訪問し、先生方と連携を図っている。	療育の現場経験の長い作業療法士や、特別支援学校で長年勤めていた児童指導員を、訪問支援員として配置しており、訪問場所や利用児の課題に応じて訪問する職員を選択している。	・職員の支援者としての知識・技能を高める取り組みを行っていく(外部の研修会の参加、他施設への見学、内部研修など)。 ・可能な限り児童発達支援管理責任者も同行し、情報共有をより充実させていく。
2	保護者との連携や情報共有、研修の機会の提供などに力を入れていること。	ペアレントトレーニングを開催している。	児童発達支援や放課後等デイサービスの保護者会に必要な場合はお声がけをし、保護者間同士の交流をうながす。
3	多機能型の事業所として、児童発達支援と放課後等デイサービスも同時に営業し、併用している利用児が多いこと。	訪問した際、こちらの事業所での様子も先生方にお伝えし、今後の対応や目標を共有することができるよう、話し合いを設けている。	もし可能なら、先生方にもワクワクひろばでの利用児の様子を見学してもらうことが可能なことを周知していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問する頻度をそれ程多くできない。	多機能型(児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援)の事業所であるからこそ、保育所等訪問支援にさける時間や人員が限られる。	・訪問した際に、先の見通しを考え、今後の活動や行事予定等をうかがい、それについての対応や工夫を可能な範囲でお伝えする。 ・利用児への支援や手立ての工夫を、より具体的に伝え、先生方の負担の軽減に尽力する。
2	訪問支援員が、保育所等訪問支援を利用する児に、事業所内(児童発達支援・放課後等デイサービス)で会う機会がなく、普段の様子を把握しにくいことがある。	訪問支援員は非常勤職員を配置しており、それぞれ児童発達支援と放課後等デイサービスに携わってもらっているが、勤務曜日は限定されているため。	可能な範囲で、保育所等訪問支援を利用する児が事業所に通う曜日に出勤することができないか、訪問支援担当の職員と勤務日を検討していく。
3	訪問した支援員が保育所等訪問支援を利用した保護者に対して、勤務曜日の関係で直接報告することができない時がある(その際は、同伴した児童発達支援管理責任者が記録用紙とともに報告している)。	訪問支援員は非常勤職員を配置しており、それぞれ児童発達支援と放課後等デイサービスに携わってもらっているが、勤務曜日は限定されているため。	可能な範囲で、保育所等訪問支援を利用する児が事業所に通う曜日に出勤することができないか、訪問支援担当の職員と勤務日を検討していく。